

高石市が対応しなければならない4つの課題

1. 減少し続ける人口

過去5年間、高石市は泉州地方でいちばん人口が減っている自治体です。出生<死亡による自然減より、**転入<転出による社会減が大きいのがデータにより明らか**で、とくに子育て世代の流入が顕著です。

いうまでもなく、子育て世代の減少は街の賑わいを減衰させ、学校教育においても1クラスしかない学年が徐々に増えているという現状からも多岐にわたって深刻な影響が出ています。

府内で人口が増え続けている自治体は北部の4市のみという泉州はもとより大阪全体でも人口減少基調にあるなかで人口を増やすということは簡単にいかないかも知れません。しかし、それでも**既成概念に捉われず人口増にむけて**、高石の未来を描いていかねばなりません。

2. 市民の声が届かない役所体制

市民の声意見箱やバブコメがありますが、「役所に意見を言っても返ってこない」どころか門前払いされた事例も耳にします。

クレームを生産的なアドバイスに変える器がリーダーとして求められるのに、貴重なアドバイスを苦情と受け止めてしまい、耳を塞いでいるのが現状で、それはあまりにも勿体ないことです。

松下幸之助翁は日本の伝統精神のひとつを「**衆智**」と仰いました。高石市はコンパクトだからこそ多くの叡智を結ぶような治政をするべきです。「自分たちで治める」と書いて「自治」。

「**私たちの知らないところで勝手に決められている**」という風潮は、郷土愛も育まれなし、意識の高い市民のやる気も削いでしまいます。市民力を醸成するような役所づくりが必要です。

3. 安心できない財政状況

高石には2種類の借金があります。ひとつは住宅ローンのようなローン型の借金。もうひとつは返済する原資がなくて借金の支払いを借金で返していた土地開発公社の借金。もちろん後者はサイアク。金利が金利を生むので、雪だるま式に増えていきます。これについては市長の公約どおり**返済する目途がたったので財政状況はかなり安定的になった**といえます。

しかし、財政難が終わったわけではありません。**高石市は多額のローンを抱えているので返済額も多いです**。この返済額が収入の25%を超えると国からイエローカードがだされ、市民サービスに深刻な影響を与えます。この動向に留意した税の使い方を議員として確りと注視しなければなりません。

4. 安全・安心の街づくり

人口増を図るならば終の棲家としていつまでも安心して暮らせる環境を整えねばなりません。

「高齢社会」というマイナスイメージを拭い去る必要があると私は考えています。戦後の苦しいときに一生懸命働いてくれた恩人に対し「**税金や保険料がたくさん使われている層**」という**見方はあまりにも無礼**です。いつまでも健康でいれるような居場所作りや遣り甲斐のもてるようなイベント、文化行事などを積極的に応援していくべきです。

また、南海・東南海地震への備えは日進月歩で進められていますが、まだまだ課題山積。

「訓練に参加してください」とお願いするばかりではなく、**職員の避難所開設の訓練**なども市民に見てもらう形で実施する必要があります。

高石市議 / 2期目 / 無所属

畑中 政昭

は た な か ま さ あ き

 未来への**挑戦**。 日進月歩 NO.15
発行元：畑中政昭
市政報告機関紙

「人口減少」、「少子高齢」、
「油断のできない財政状況」、「教育力の低下」、
「市民の声が届かない役所の体制」。

課題が山積する高石の未来に対し、
みんなの声を丁寧に紡いで創り上げた
「これから為すべき政策ビジョン」。
畑中の未来への**挑戦**。

○高石ビジョン編（前半）…今後、畑中が掲げるビジョンと政策をお届けします。

「今までの付き合いがある」「地域の顔だ」皆さんが政治家を選ぶのには色んな事情はあると思います。

でも、その人の政策も判断基準にいらしてください。

選挙ポスターで「住みよい高石に！」とか書かれてますが、それをどう実現させるかを訴えるのが選挙です。

政策を考えて候補者を選んでください。もちろん、ボク以外の考え方もお聞きください。

政策で選ばない投票がこのまま続けば、必ず高石の政治は悪くなります。

8年前の初めての選挙からずっと、私はこのように街頭演説で訴え続けています。

あなたは高石市議になにを求めていますか？

いろんな式典に来賓として招かれ、胸に赤いリボンをつけて挨拶することでしょうか？

それとも、選挙地盤である地域からの注文を行政に届けることでしょうか？

どちらも大切なことですが、税金をもらって働く私たちの仕事はそれだけでいいのでしょうか？

将来に対するビジョンと、それを実現させるための政策を持たずして政治家と呼べるのでしょうか？

もっと政策を重視した判断基準でないと必ず高石の政治は悪くなります。

だからこそ、私は全身全霊で自分のビジョンと政策を示します。

「日進月歩NO.15」は高石ビジョン編（前半）です。どうぞ高覧ください。